

町田市議会議員・ネット発信NO. 1

吉田つとむ

ユーチューブ動画 930万回再生突破!



決算付帯意見:歳入では入湯税で支持意見

町田市議会は第3定例会で町田市の決算認定の審査をしたものですが、所管の総務常任委員会の付帯意見において、提案した事項の一部を紹介します。(歳入)では、(1)入湯税は予算現額より収入済額が多くなっており、不納欠損、収入未済額が1円も生じていないことを鑑み、その他の業種の法人市民税でも不納欠損、収入未済額の減少に努められたい。と書きました。使用した用語が議会用語の言葉になっていますがご理解ください。



その意味は、町田市内にある温泉施設にかかる入湯税は1円の漏れも無く市税として納めていただいており、当初予算見込み額よりさらに多くの歳入額になっている。法人市民税でも同様の結果が出て、不納欠損、収入未済額が発生しないように頑張ってほしいという内容になっています。

「(6) 庁内業務作業の整理を図り、ワークサポートルームの拡充に努め、知的障がい者を含めた幅広い雇用と就業機会の拡充を図られたい。」の意味は、町田市は障がい者雇用が進んでおらず、しかも、知的障がい者の雇用が特に遅れていることの改善とその方法を、庁内業務の仕分けを行う方法で具体的な改善を提起したものです。

決算付帯意見:商店街事業補助金見直し

決算認定の付帯意見では、全部で24件を提案しましたが、2件が他委員の意見と統合、数件が文言の一部を修正した結果、全ての意見が(全員)可決の採決となりました。



2025.10.02

「(54) 町田市商店街チャレンジ戦略支援事業補助金、及び、東京都地域連携型商店街事業費補助金の使途に関して、それらの事業が商店街の発展にどのように繋がっているか不明な点があり、それらの事業の有効性の再点検を図られたい。」と言う提案も支持された付帯意見の一つでした。その趣旨は、商店街の発展のための支援施策補助金が、商店街イベント事業予算の補助金となっており、そこでは販売されるや焼きそばや焼き鳥の売り上げが良かった、人気があったという話題が中心になっている問題を取り上げました。イベント来場者数やその場の模擬店販売がにぎわっても、その後に商店街の顧客の拡大につながったり、個別商店の売り上げ増をもたらしているのか疑問であり、現状は商店街の個別店舗も、シャッターを下ろしたり、閉業する傾向が著しくなっており、商店街自体も衰退の道をたどっている状況です。また、街が高齢者ばかりかと言うとそうでもなく、学習塾や放課後デイサービス施設などはさらに商店街の中に拡充しています。

①町田市議会は定数36名(3名欠員)。大多数はそれぞれの会派に所属しますが、会派に属しない諸派議員が5名です。吉田つむは、「無所属」という3名の会派に所属。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。

その会派「無所属」の3名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。

インターンシップで若者育成の貢献

町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記⑨渡部 結衣

町田市議会の本会議質疑を見る、聞く

今回のインターンでは、令和七年（2025年）第3回町田市議会定例会の本会議質疑を傍聴しました。議会の傍聴は前回に続いて二度目となり、前回よりも落ち着いて聞くことができました。私が注目したのは、吉田議員と新井議員のものですが、吉田議員は発言順位二番目に登壇し、町田市バイオエネルギーセンター施設火災復旧事業について質問しました。その内容は、被害の実態、安全対策の具体策、積算の根拠、特定財源以外での支出金額の財源、負担金とした理由、さらには分別作業に必要な人力や労力に関する点など、多岐にわたっていました。市民生活に直結する重要な施設であることから、その復旧に関する透明性を明らかにしようとする姿勢を感じました。

また、同じ会派の新井議員は芹が谷公園“芸術の杜”推進事業について質問しました。具体的には、物価上昇に伴う増額分、建設発生土の搬出増額、省エネ法改正に対応した工事内容の見直しに伴う費用、そして美術館整備費用全体の総額などに着目していました。市の文化政策や大型事業における費用を明確にしようとする視点が印象に残りました。

前回と比べると傍聴席は閑散としており、違和感を覚えて質問してみたところ、吉田議員や新井議員から「発言回数が3回に限られていることと、意見を述べることができない」と教えていただきました。さらに、一般質問の時間制限往復1時間は吉田議員の提案によるものであることも知り、議会運営の仕組みを深く理解する機会となりました。



大妻女子大学1年生 渡部 結衣（第56期生）

インターン体験記④露木 莉子

今回は、ボタンの博物館を訪問させていただきました。今までボタンについて深く考えたことがなかったのでとても興味深い経験になりました。



ボタンの博物館には、世界や日本の様々なボタンが展示されていました。私は、ボタンは服を留める機能としてしか見ていなかったので、ボタンをステータスとしてつけられていたことや丸いキャンバスとして捉えていること、「ボタンが様々な表情を見せる」という言葉には大変驚きました。実際に見た中で、ガラスが埋め込まれているボタンは繊細で、なぞかけボタンは遊びどころもあり印象的でした。また、ボタンからは文化的な要素も感じられ、特に、革命前後で貴族の豪華で優美なボタンから勝利を勝ち取った庶民的なボタンへの変化は対照的でした。グレイ90'sボタンでは、使う人が変化し庶民にも普及したため、作られ方も変化したそうです。ボタンに機能性や芸術性、権力を示す象徴だけでなく、歴史的背景が表れているということを学びました。

自分が生活している中で、ボタン一つについてこんなにも真剣に向き合ったり、考えたりしたことはありませんでした。生活の中で、色々なことに敏感になり気づきを増やしていくことで、自分の興味や関心を引き出していきたいなと感じるきっかけとなりました。

昭和女子大学3年生 露木 莉子（第56期生）

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。

◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が大好評です。

◎就業先は一般企業就職が最大で、次いで公務員や教職。弁護士が3名、医師も1名。